産経新聞
<第三種郵便物認可>

「大切なのは夢を持ち続けること」

野村克也さん
34年ぶり母校・峰山高で講演

京丹後市網野町の出身で、プロ野球界で選手、監督として数々の輝かしい成果をあげた野村克也さん(79)が30日、34年ぶりに母校の府立峰山高（同市峰山町）を訪れ、特別講演を行った。野村さんは約750人の生徒らを前に、夢を持つことや努力を怠らないことの大切さを説いた。

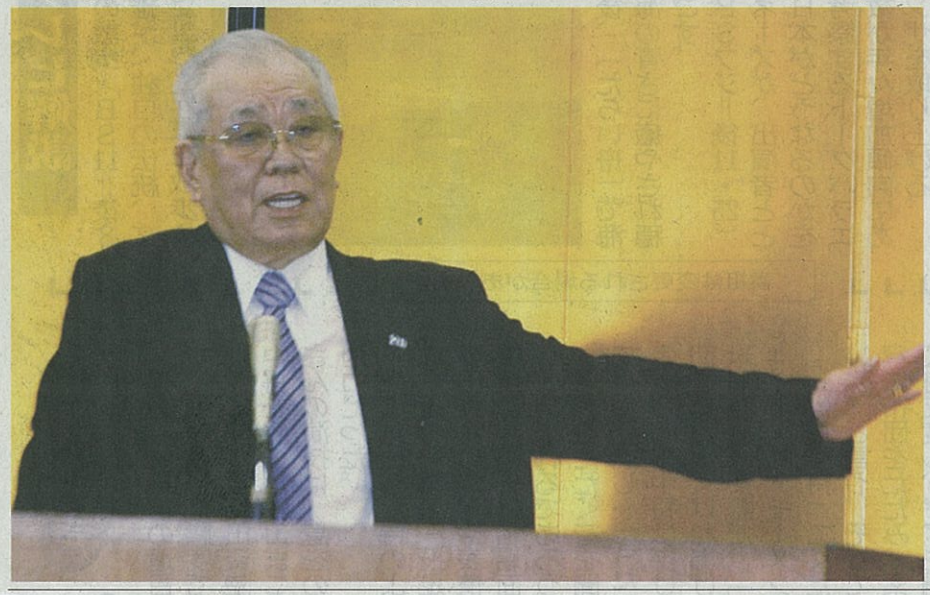
昨年度の同校PTA会長が、34年前の野村さんの同校での講演を聞いて感動したことを渡利謙太郎校長らに話し、「ぜひもう一度話を聞きたい」と今年春から講演を依頼し、この日ようやく実現した。

「野球を通しての人生論～峰山高校の後輩に伝えたいこと」と題した講演で、野村さんは貧しかった子供時代を回想。小学校低学年のころから新聞配達などのアルバイトをしていたことや、「金をかせいで早く母親を楽にしてやりたい」と、プロ野球選手を目指したことなどを話した。

野村さんは昭和29年、峰山高からテスト生として当時の南海ホークスに入団。最初は「テスト生は一軍選手にはなれない」などと言われたが、人の何倍も努力をして一流選手となり、通算本塁打657本など素晴らしい成績を残した。

野村さんは後輩たちに、これだけは覚えておいてほしいと前置きして「大切なのは夢を持ち続けること。そうすれば不思議とその通りになる」と激励。「そのためには正しい努力を続けることが必要。世の中は単純明快で努力をすれば必ず花開く。ただし、努力に即効性はない。日々自分との戦いに勝った者が目標を達成することができる」などと述べた。

講演を聞いた生徒会長の瀬戸康平君(18)は「目標をかなえるためには努力が必要だということがよくわかりました」。副会長の柴田鼓さん(18)は「努力に即効性はないという言葉が印象に残りました」と、母校の偉大な先輩の言葉に感銘を受けた様子だった。



後輩たちに努力の大切さなどを説く野村克也さん＝京丹後市の峰山高